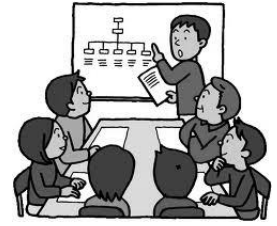


●第2回赤前地区復興まちづくり検討会

◆開催概要

日時：12月9日(金) 18:30～21:15

場所：赤前コミュニティ消防センター 出席者：検討会メンバー11名



検討にあたっての情報提供

■地区復興まちづくり便りへの意見等について

皆様からお寄せいただいた復興まちづくりに関するご意見やご提言をお知らせし、第2回津軽石地区検討会の検討成果についてもご紹介し、検討を進めました。

■浸水深と建物被害の関係について

宮古市の建物被害は、浸水深 2m前後で被災状況に大きな差があり、2m以下の場合では建物が全壊となる割合が大幅に低下しています。

■津波シミュレーションについて

赤前の低地部に二線堤を整備した場合(4 ケース)のシミュレーション結果をご説明しました。稲荷橋延長線の場合は 5.5～7.5m程度、工業高校北側の場合は 3～6m程度、ふ化場付近の場合は 6m程度の二線堤の盛土高が必要になると予想されます。二線堤までの空間が多く取れるケースが浸水深は小さくなります。また、駒形通から赤前に向けて斜めに設置した場合と工業高校北側の場合とを比較してみると、浸水深に関して大差がないと予想されます。

さらに、最悪のケースを想定し、防潮堤が破壊された時でも人命を確実に守れるようにするため、避難計画は防潮堤がない場合のシミュレーション結果をもとに検討を進めました。

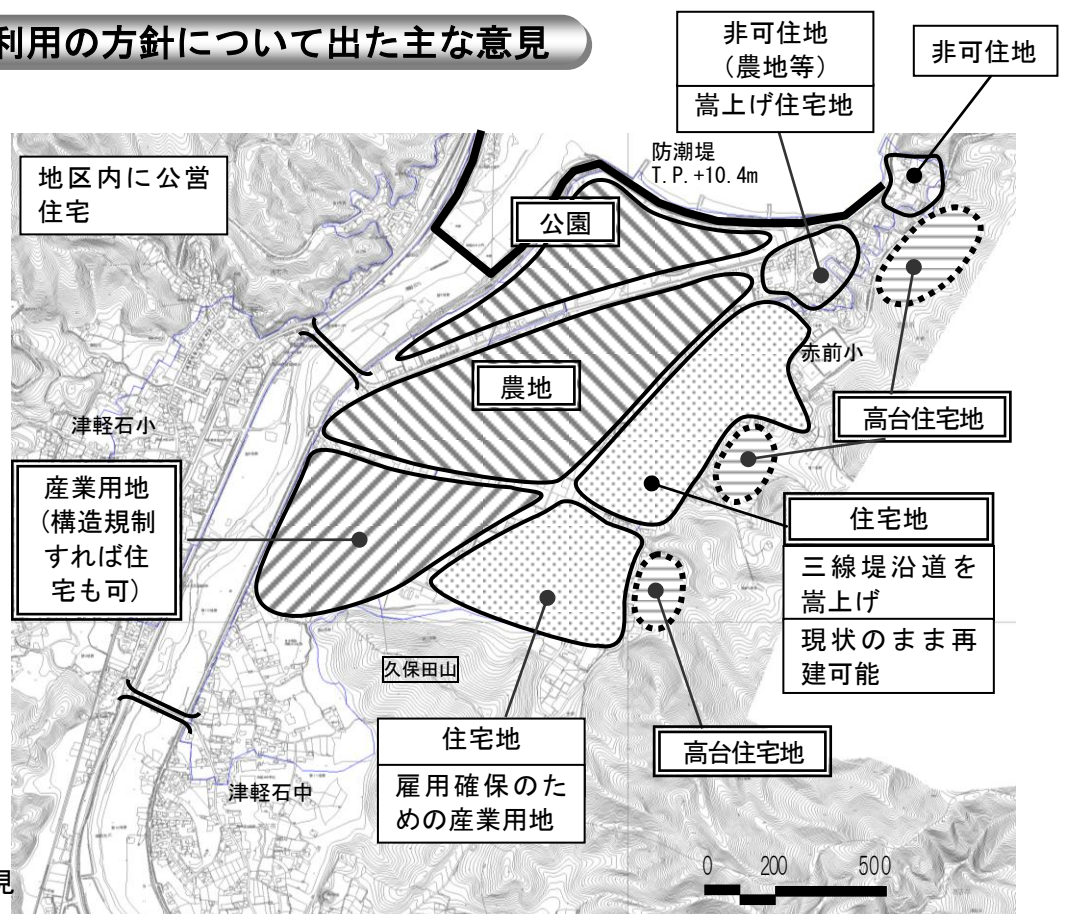
■宅地等の造成イメージについて

第1回検討会での意見をもとに釜ヶ沢背後地、赤前小学校付近、赤前上背後地、東北ヒロセ電機北東の4箇所を高台住宅地、工業高校周辺での嵩上げ住宅地の造成イメージ図をお示しし、検討を進めました。

住宅・産業等の土地利用の方針について出た主な意見

第1回に引き続き2班に分かれて検討した結果、右図に示すように意見の共有が図られました。

- 低地部は嵩上げ道路を整備し、その海側は農地や公園とし、山側に住宅地や産業用地を集約。
- 山裾は住宅地とするが、嵩上げする意見と現状のまま早期再建する意見とが出された。

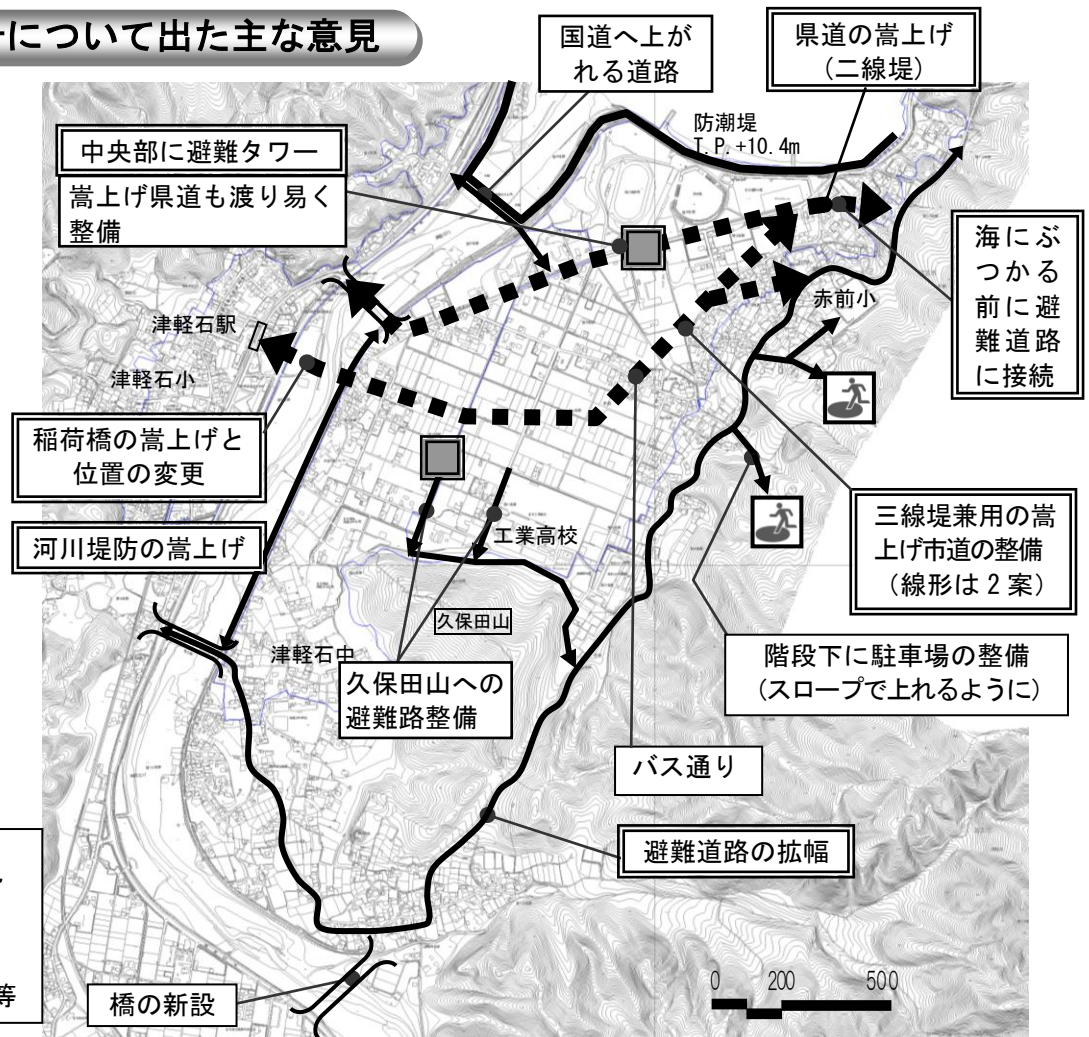


両方の班から出た意見

道路、防災等の方針について出た主な意見

道路と防災等についても、2班で検討し、右図に示すように意見の共有が図られました。

○二線堤兼用の嵩上げ
県道、三線堤兼用の嵩上げ市道の整備、赤前～藤畑～津軽石を結ぶ避難道路。



- 両方の班から出た意見
- 避難所、避難場所
- 津波避難ビル・タワー等

今回の検討会で共有できた方針

①土地利用の方針

既存住宅地	山裾の住宅地。 ※嵩上げる意見と現状のまま早期再建できるようにする意見が出されています。 地区内に公営住宅。
市道の背後	三線堤兼用の市道の山側は住宅地、既存工場等の集約ゾーン。 ※工業高校周辺では、新規雇用を生み出すために、積極的に企業誘致を図るゾーンとすべきであるとの意見もありました。 ※ふ化場周辺では、予想浸水深が浅いため、構造規制すれば住宅地としても良いとの意見もありました。
県道と市道の間	農地や工場地の集約ゾーン。
県道の海側	公園（多目的公園や既存施設を活かした運動公園）

②道路、防災等の方針

防潮堤兼用道路の整備	県道を嵩上げて二線堤の整備。 三線堤兼用の市道の整備。 ※嵩上げ市道の線形について、既存の住宅地を配慮すべきであるとの意見や土地の入れ替えが可能であれば理想的な線形も提案できるとの意見がありました。 ※次回、県道を嵩上げた場合や三線堤兼用の市道を整備した場合の津波シミュレーション結果をお示しし、議論を深めます。
避難道路の整備	津波発生時に自動車で迅速に避難できるよう集落を取り囲むように山側での避難道路の整備（赤前～藤畑～津軽石）。 久保田山に迅速に避難できるような避難道路等の整備。
橋梁の嵩上げ等	稲荷橋、駒形橋の拡幅、嵩上げ。藤畑弘川間の橋梁新設。
津波避難タワーの整備	予想浸水深が深い区域内における津波避難タワーなどの整備。